

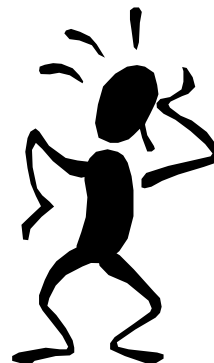
ウソをつくうまさに関する個人特性 —社会的スキルの観点から—

太幡直也 (Naoya TABATA)

常磐大学人間科学部

はじめに

☆ウソを漏らしやすい(にくい)人はいるのか？



社会的スキル

社会的スキル (social skill)

対人関係を円滑的に運ぶために役立つ技術

社会的スキル高

情報、行動、イメージを管理するのが上手い？



ウソをつくのが上手い？
(発言が信じられやすい？)

社会的スキル低

情報、行動、イメージを管理するのが上手くない？



ウソをつくのが上手くない？
(発言が信じられにくい？)

ウソと社会的スキルに関する研究

◆紹介する研究

1. 発言の信じられやすさ

➢リッジオらの研究 (Riggio, Tucker & Throckmorton, 1987)

2. 「バレているかも!？」という感覚の感じやすさ

➢タバタの研究 (Tabata, 2009)

発言の信じられやすさ

▽リッジオらの研究 (Riggio, Tucker & Throckmorton, 1987)

社会的スキルの
独自の尺度への回答

本当のこと、ウソのことを
話す(録画される)

映像を見た評定者が、
「話の内容が信じられる
程度」を評価する

社会的スキルの側面

- ①表出: 言いたいことや気持ちを表現できるか？
- ②感受性: 相手の表現に気づけるか？
- ③統制: 表出するときに感情を適切にコントロールできるか？

➢①~③について「言語的側面」
「非言語的側面」に回答を求める

発言の信じられやすさ

【結果】…「ウソをついたとき」の信じられ度と社会的スキルの相関係数

言語的側面

表出 .15

感受性 -.33

統制 .40

非言語的側面

表出 .15

感受性 -.10

統制 -.04

**発言内容を統制
できる人は、
ウソをついたときに
信じられている**

発言の信じられやすさ

【結果】…「**本当のことを言ったとき**」の信じられ度と社会的スキルの相関係数

言語的側面	
表出	.44
感受性	-.22
統制	.44
非言語的側面	
表出	.18
感受性	-.07
統制	.35

7

ウソと社会的スキルに関する研究

◆紹介する研究

1. 発言の信じられやすさ
 - リッジオらの研究 (Riggio, Tucker & Throckmorton, 1987)
2. 「バレているかも!?’という感覚の感じやすさ
 - タバタの研究 (Tabata, 2009)

8

「バレているかも!?’という感覚の感じやすさ

懸念的被透視感 (sense of unwanted transparency)
 相互作用しているとき、直接的に伝えていないのに、気づかれたくない事柄を相手に気づかれているかもしれないと感じる感覚
 (Tabata, 2007; 太幡, 2008, 2009)

欺瞞的コミュニケーションに失敗した可能性を推測することで生じる

9

「バレているかも!?’という感覚の感じやすさ

▽タバタの研究 (Tabata, 2009)

対象者: 大学生309名 (男性134名、女性174名、不明1名)

質問紙の構成: “1. 全くあてはまらない”から“5. 非常にあてはまる”の5件法

- ・自己意識尺度 (中村, 2000)
 - 私的自己意識 (10項目, $\alpha=.81$)
“いつも自分のことを理解しようと努めている”
 - 公的自己意識 (7項目, $\alpha=.81$)
“自分の立ち居振る舞いが気になる”
- ・シャイネス尺度 (中村, 2000) (14項目, $\alpha=.90$)
“よく知らない人たちと一緒にいると緊張してしまう”

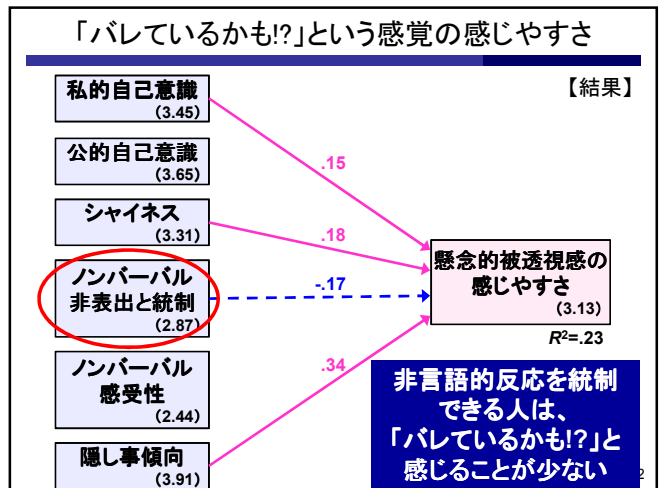
10

「バレているかも!?’という感覚の感じやすさ

▽タバタの研究 (Tabata, 2009)

- ・ノンバーバルスキル尺度 (和田, 1991)
 - **ノンバーバル非表出と統制** (6項目, $\alpha=.80$)
“私はめったに自分の表情や情動を表さない”
 - **ノンバーバル感受性** (6項目, $\alpha=.68$)
“私と同じくらいに敏感に人の行動を理解できる人は誰もいない”
- ・隠し事傾向 (独自作成、1項目)
“人に気づかれたいことを持っている方だ”
- ・懸念的被透視感の感じやすさ (独自作成、1項目)
“相手とやりとりをしているときに、気づかれたいことを気づかれないかもしれないと感じることがしばしばある”

11



まとめ

◆ウソをつく上手さに関わる個人特性

➤ 自己の反応の統制に関するスキル

- 言語的側面の統制・・・ウソをついても信じられやすい
- 非言語的側面の統制・・・欺瞞的コミュニケーションの失敗を感じるが少ない

※「言語的側面の統制」と「非言語的側面の統制」の関係

男性 .19 / 女性 .05 (Riggio, 1986)

◇今後の展開(期待もこめて)

- 社会的スキルは自己評定→他者評定でも検証の余地あり?
- 実際のコミュニケーション場面での検討

13